

台湾統治・台湾警察の実情を綴ったもう一つの『沿革誌』

中島利郎・吉原丈司 編集

# 鷺巣敦哉著作集

全5巻

日帝統治下台湾史の根本史料として著名な『台湾総督府警察沿革誌』の編纂者であり、  
実質的な著者でもある鷺巣敦哉の主要著作を初めて集成。『沿革誌』を補完し、  
日本の台湾統治の裏面、台湾警察の実態を知る上で、また鷺巣研究に必備の著作集。

緑蔭書房

鷲巢敦哉



(於昭和5年9月12日、第30回特科練習生修了記念)

## 編集にあたって

『台湾総督府警察沿革誌』といえは、台湾研究にたずさわるものでその名を知らないものはない。ことに、その第二編上巻「領台以後の治安状況」及び中巻「領台以後の治安状況（台湾社会運動史）」の詳細な記録は、現在の台湾研究にはかり知れない恩恵を与えていると言えよう。それは、植民者であり統治者が書き残したものであるが故に、被植民者の反植民地的行動について微細にわたって記録され、今日に資料を提供しているのである。しかし、その『沿革誌』の著者である鷲巢敦哉については、ほとんど知られていないし、また『沿革誌』以外の彼の著書についても知られることは余りない。

本著作集は、『沿革誌』の実質的な著者であり、当時きつての警察通であった鷲巢敦哉の『沿革誌』以外の著作を編集復刻した。それは、『沿革誌』を補足すると共に、台湾の警察制度及びその裏面を知るよすがとなると思うし、また鷲巢自身の経歴を通して、日本統治期の生身の警察にも触れることができると思う。

彼の著作には長く統治の前線で携わってきた警察官の率直な統治者観、社会運動観、民衆観が吐露されており、台湾社会運動史、台湾植民地史を複眼的にとらえる上で貴重な歴史証言を提供している。

推薦のことは

## 日本統治期台湾史の実態解明の必読史料

若林正丈 〈東京大学教授〉

日本植民地統治時期の台湾史を研究しようとする、必ず突き当たる史料が『台湾総督府警察沿革誌』全六冊である。大学院で一九二〇年代の抵抗運動史研究に取り組んだわたしは、その「第二編中巻」、通称「台湾社会運動史」の、当時はまだゼロックスコピーからの復刻版のページを、手垢のつくまで繰り返し操った記憶がある。この基本資料中の基本史料の編纂に携わったのが鷺巣敦哉であった。台湾総督府巡查からたたき上げの鷺巣は、いわゆる「蕃地」勤務を含めて豊富な勤務経験があり、一九四〇年代に入って出された『台湾保甲皇民化読本』なども実は一九二〇年代抗日運動研究でも必読史料であった。一介のたたき上げ警察官の退職後の著作がここまで資料的価値を持つのも、日本の台湾植民地統治が、矢内原忠雄が『帝国主義下の台湾』で言うところの「警察政治」であった、すなわち、植民地の基層統治のほとんどすべての局面に警察官がかかわったものであったからである。このたび、中島利郎・吉原丈司両氏により、鷺巣の著作が雑誌掲載のものも含めて整理・復刻されることは、日本統治期台湾史のより実態に即した解明に大いに資するものと歓迎したい。

### 鷺巣敦哉略歴

明治29年 鹿児島県に生まれる。  
明治36年 台湾の弁務署勤務の父と渡台し、小学校より同地で学ぶ。その後父の逝去にともない郷里に帰る。  
大正6年 1月に再び渡台し、総督府巡查として、総督府警察官及司獄官練習所乙科に入校。同年4月同科修了後、南投庁に赴任、8年3月に警部補となる。この間、霧社市庁等で蕃地勤務を経験する。その後台中州新高郡の外動監督、州警務部衛生課勤務。  
大正10年 4月練習所甲科入校。翌年3月修了。その後台中州警務部警務課次席等を経て、13年警部に昇進。  
昭和2年 10月東京の警察講習所に10ヶ月間巡遣される。  
昭和4年 6月練習所の教官に転任。  
昭和5年 10月霧社事件に出動。また、練習所勤務とともに『台湾警察時報』の通信委員となる。  
昭和7年 1月病気のため練習所を辞職。6月に台湾警察協会嘱託、11月には総督府警務局の嘱託となり、『台湾総督府警察沿革誌』の編纂に従事し、16年までに、『沿革誌』6冊を出版すると共に、多数の文章を台湾各誌に発表、また単行本も刊行する。  
昭和18年 病気のため内地で逝去したと思われる。

# I 警察生活の打明け物語

(内容) 序文に「警察生活十五年に亘る豊富なる体験に基き、警察のあらゆる階級及警察実務の各方面に亘り経験談を叙述」とあるように、総督府の警察組織と警察官の活動の実態を描く。

(目次) 練習生の巻 巡査さんの巻 蕃界生活の巻 巡査部長さんの巻 甲科生の巻 警部補さんの巻 警部講習生の巻 警部さんの巻 司法主任さんの巻 高等警察主任さんの巻 行政主任さんの巻 練習所教官の巻 警察課署長さんの巻 警察史の編纂に従事して

(解説) 吉原丈司 (原本―昭和9年2月16日発行/個人出版) (巻頭に口絵を付す)

# II 台湾警察四十年史話

(内容) 本書は一般警察官教養資料として、創始四十余年に及ぶ台湾警察のあらゆる部門の概況を記述したもの。著者自ら本書を「台湾警察通俗沿革誌」と述べているように、『台湾総督府警察沿革誌』を補完する史料。

(目次) 台湾警察の各時代 警務のあれこれ 保安警察の一斑 理蕃の話 衛生行政の今昔物語 他に写真多数所収

(解説) 吉原丈司 (原本―昭和13年4月28日発行/個人出版)

# III 台湾保甲皇民化読本

(内容) 台湾における皇民化運動の歴史と理念と実態を論じたもの。当時の当局の大衆操作の一面を知る上で必読史料。

(目次) 台湾の歴史を語る 保甲壮丁団の話 皇民化の話 時局と島民の奉公 他に写真多数所収

(解説) 吉原丈司 (原本―昭和16年11月20日第三版発行/台湾警察協会)

臺灣總督府警務局長兼  
警察官及河堀官練習所長  
石垣倉治閣下序

## 警察生活の打明け物語

元警官練習所教官 鷺巢敦哉著

## 臺灣警察四十年史話

鷺巢敦哉著

皇紀二千六百年記念出版

## 臺灣保甲皇民化讀本

# IV 台湾統治回顧談

— 台湾の領有と民心の変化 —

(内容) 領台前後から五〇年間、日本統治の実態と民情の変遷を系統的物語風に詳述。本書は雑誌『台湾地方行政』に連載されたものを単行本にして公刊したもの。

(目次) 日清開戦の顛末 日清講和と台湾領有のいきさつ 台湾の接収 台湾統治受難の時代 大小反乱(陰謀事件) 統出時代 所謂台湾同化会事件 学生と文化協会と台湾協会 風俗習慣の変革 皇民化問題 を顧みて

(解説) 中島利郎 (原本一昭和18年9月20日発行/台湾警察協会)

# V 雑誌所収著作

(内容)

1 『台湾警察協会雑誌』所収著作

「本島警察の特質を論ず」「警察講習所たより」他

2 『台湾警察時報』所収著作

「警察漫想」「台警今昔物語」「警察界道塗説」他

3 『台湾地方行政』所収著作

「台湾地方行政の四十年史話」他

4 『台湾時報』所収著作

「拓務省の沿革」「台湾皇民化の諸問題」

5 『台法月報』所収著作

「法院制度の今昔物語」

(解説) 吉原丈司

(巻末に著作目録、小伝付年譜、人名索引を付す)

本文内容見本(第V巻) 60%縮小

總督府警察沿革誌編纂屬託 鷲巢敦哉著

臺灣總督府 鷲巢敦哉遺著

## 臺灣統治回顧談

(臺灣の領有と民心の変化)

### 臺灣地方行政の四十年史話 (一)

鷲巢敦哉

はしがき

先般発行せらるるに至つた臺灣地方自治行政制度が、之を内地のそれと比較するに、如何にも、臺灣特有の過渡的、權宜的制度なることを著せらるるに拘はらず、之が改正に關して、中川總督及平塚總督兼官以上の拂ひたる苦心が、絶大なものであつたことは、少しく市國議會の論議に注目して

みるものならば直に察し得る所である。而も現下の非常時局と關係し、此の新制度の運用を固府無碍ならしむることの重大さは、尤も、手近に本年十一月號の國家總動員の記事

を詳細に注目せらるるならば亦直に感知し得る所である。

だが、本文の筆者は今更本制度の利害得失を論じやうと云ふのでは毛程ない。唯専心改訂以後の臺灣統治史を研鑽して、ある期間の論議を以て、日本が臺灣を授受して以來、一體地方制度は如何なる經過を執つて来たかを紐つてみよと云ふに通ぎない。

悪い話には、水鏡の方で毎日書き續けてゐる。ここでは中間體狀態で變遷期は夜防風に書き續けさせて置きたい。然る處心と吐露して互に充分話し合へば判る。といふのが私の願

台湾統治・台湾警察の実情を綴ったもう一つの『沿革誌』

# 鷲巢敦哉著作集

——全5巻——

編集 (中島利郎〈岐阜聖徳学園大学教授〉  
吉原丈司〈法制史学会会員〉)

- I 警察生活の打明け物語〈解説=吉原丈司〉454頁
- II 台湾警察四十年史話〈解説=吉原丈司〉550頁
- III 台湾保甲皇民化読本〈解説=吉原丈司〉516頁
- IV 台湾統治回顧談〈解説=中島利郎〉416頁
- V 雑誌所収著作〈解説=吉原丈司〉664頁

〈編集復刻版・四六判・上製クロス装〉

揃定価〔本体50,000円＋税〕分売不可 '00年11月刊

ISBN4-89774-247-1 C3031

## 好評既刊図書

台湾近現代史研究会編

### 台湾近現代史研究

全2巻／A5判上製クロス装  
定価〔本体29,000円＋税〕

台湾近現代史に関する日本で唯一の研究誌。このたび、久しく品切れになっていたものを要望に応じて全冊（創刊号～第6号）を完全復刻した。

台湾経世新報社・台湾総督府編

### 台湾大年表・台湾日誌

全2巻／B5判上製クロス装  
定価〔本体32,000円＋税〕

日本統治下台湾五十年の動向を伝えた唯一の年表・日誌。政治、経済、教育、文化、衛生、軍事、宗教、出版、人事等あらゆる分野の重要事項を網羅する。

台湾日日新報社編

### 改訂増補 台湾六法

全1巻／B5判上製クロス装  
定価〔本体50,000円＋税〕

昭和九年発行。日本統治期台湾の特殊な法制体系を知る資料。原本は日本で殆んど見ることができないもので植民地法制史研究のみならず広く植民地研究をする上で必携の資料。本書は予約限定出版です。

## 緑蔭書房

東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03-3579-5444

特約店